

# 労働市場の変化による所得推定に基づくマイクロシミュレーション —既存の社会保障制度とベーシックインカム制度の比較—

○根岸美知 李皓（静岡大学）

Micro-Simulation based on Income Estimation due to Changes in the Labor Market  
-Comparison of Existing Social Security System and Basic Income System-

\*M. Negishi and H. Lee (Shizuoka University)

概要— 従来の社会保障制度に代わる政策として、政府が国民に対して最低限の生活を送るのに必要な額の現金給付を無条件に行う政策であるベーシックインカムが期待されている。本研究は、マイクロシミュレーションモデルを用いてベーシックインカムが貧困問題の解消に有効であるか考察する。これまでの研究では、浜松市中区を対象とし、一年のみのシミュレーションを行った。本研究では、地域を広げ、労働市場や人口の変化に応じたシミュレーションサイクルを用いることにより、ベーシックインカムが人々の所得に与える長期的な影響を考察する。

キーワード：ベーシックインカム、マイクロシミュレーション、社会保障

## 1 はじめに

厚生労働省（2017）<sup>1)</sup>によると、近年、社会保障費は年々増加している。また、尾藤ら（2011）<sup>2)</sup>によると、生活保護捕提率は2010年で15.3%～18%程度と推定されている。これらのことから、現在の社会保障制度は大きな問題を抱えていると言える。

ベーシックインカムとは、社会保障制度として、政府が国民に対して最低限の生活を送るのに必要な額の現金を無条件に給付する政策である<sup>4)</sup>。

社会保障、ベーシックインカム、雇用に関する先行研究として、以下が挙げられる。

- ・小沢（2002）<sup>4)</sup>：ベーシックインカムに関し、税収総額の観点や代表的なモデル世帯に対する影響を想定した検証が行われている
- ・稲垣（2010）<sup>5)</sup>：INAHSIMモデルを用い、公的年金制度の所得保障機能が将来にわたって維持されているか、政策評価を示している。
- ・杜,村田（2016）<sup>6)</sup>：CAMMODモデルを用いたシミュレーションにより、公的年金制度の所得代替率の変化を示している。

## 2 既存研究

既存研究として我々は、浜松市中区の仮想個票データを用い、2015年のみのシミュレーションを行った。世帯ごとに、従来の社会保障制度（年金、生活保護）を継続した場合、それらを廃止し月額8万円のベーシックインカムを導入した場合の所得の計算を行った。

## 3 研究方法

### 3.1 研究の目的

2015年～2065年の50年間を想定し、マイクロシミュレーションを用い、ベーシックインカムを日本に導入した場合に、①世帯の所得変化、②生活保護捕提率、③年金額の増加に対して政府の支出はどうかといった観点から、従来の社会保障制度と比較することにより、国民の所得に与える影響を分析・考察することを目的に研究を行う。

本研究では、既存研究に加え次のことを行う。①産業モデルを作成し、雇用数や非正規雇用者の割合の増減を考慮する。②給与・年金以外の所得推定③ライフサイクルを考慮した動的なモデルにする。④範囲を広げてシミュレーションを行い、比較することにより地域差について考察する。⑤ベーシックインカムの支給金額による違いを考察する。

### 3.2 使用データ

本研究では、村田・原田（2019）による合成人口データの2015年のデータを用いる。

### 3.3 給与・年金以外の所得推定

所得が0かつ18歳～65歳のエージェントに対し、国民生活基礎調査の実際の所得分布と仮想個票上の所得分布が一致するように所得の割り当てを行う。

### 3.4 ライフサイクルとシミュレーションモデル

本研究では INAHSIM モデルのデータ構造、シミュレーションサイクル<sup>5)</sup>を元にし、モデルを構築する。

ライフイベントは INAHSIMモデルの出生、死亡、婚姻、離婚、就業状態の遷移などといったライフイベントに加え、就業状態の遷移の後に所得の推定を行う。また、結婚行動はCAMMOD<sup>6)</sup>モデルにより、就業状態の遷移に関しては後述の産業モデルによって推定を行う。

### 3.5 産業モデルと労働市場

産業モデルでは事業所の数、規模について3つのパターン（増加、変化なし、減少）を想定し、以下の手順でシミュレーションを行う。

- ①3つのパターンごとに事業所の数、規模を確率的に変化させる
- ②事業所ごとに正規雇用と非正規雇用のそれぞれの求人数を決定する
- ③エージェントの就業意欲（増加、変化なし、減少）を決定する
- ④無職のエージェントと各事業所の求人とのマッチングを行い、給与を決定する

## 参考文献

- 1) 厚生労働省：「平成29年版厚生労働白書—社会保障と経済成長—」3/447（2017）
- 2) 尾藤廣喜,吉永純,小久保哲郎,生活保護問題対策全国会議：「生活保護『改革』ここが焦点だ!」,あけび書房（2011）
- 3) アイルランド政府：「ベーシック・インカム白書」（2002）
- 4) 小沢修司：福祉社会と社会保障改革 ベーシック・インカム構想の新地平, 1/188, 高学出版（2002）
- 5) 稲垣誠一：「日本の将来社会・人口構造分析マイクロシミュレーションモデル（INAHSIM）による推計」, 財団法人日本統計協会（2007）
- 6) 杜,村田：公的年金制度における47都道府県の所得代替率に関する考察（2016）